

伏見稲荷大社

大倉 悠太郎

(2018 年度入学 鈴木ゼミ 2 期生)

『52.1%』、この数字が意味するものは何であろうか。

京都市産業観光局は、年に1度、市内の観光動向についてまとめた「京都観光総合調査」を発表している。この調査では、京都観光における観光客数や観光客の満足度、外国人観光客の動向などの数値が示される。冒頭の数字は、令和元年（2019）の京都観光総合調査・「外国人観光客実態調査 ― 訪問地トップ25」内の数字であり、「伏見稲荷大社」への訪問率を表している。つまり、京都へ訪れる外国人観光客のうち、2人に1人は伏見稲荷大社を訪れているのだ。同調査によると、令和元年の外国人観光客数は886万人。その半数が伏見稲荷大社へ訪れるというのだから、その人気ぶりに驚かされる。因みに、訪問地トップ5は次のようになっている。【1位—清水寺（66.6%）・2位—二条城（57.3%）・3位—伏見稲荷大社（52.1%）・4位—金閣寺（46.8%）・5位—ギオンコーナー（30.0%）】

今回は、外国人観光客に大人気な「伏見稲荷大社」を紹介したい。伏見稲荷大社は、京都府京都市伏見区深草に位置する神社であり、全国に約3万社あるといわれる稲荷神社の総本宮である。稲荷山（標高233m）の西麓に本殿があり、稲荷山全体を神域とする。旧称は「稲荷神社」。現在の名称になったのは、第二次世界大戦後に国家管理を離れて独立の宗教法人として運営されるようになってからのことである。（昭和21年7月以降）



現在、重要文化財に指定されている本殿には五座の神が祀られており、主祭神である「宇迦之御魂大神」を中央の下社、「佐田彦大神」を中社、「大宮能売大神」を上社に据え、明応8年（1499）に本殿に合祀された左右の摂社に「田中大神」と「四大神」を祀っている。この五座の神を「稲荷神」、あるいは「稲荷五社大明神」と称している。稲荷神は、その名称からも察せられるように稲の穀霊信仰を起源とするものであり、「五穀豊穰」を司る神であった。しかし、時代が下がるにつれ、商売繁昌・産業興隆・家内安全・交通安全・芸能上達の守護神としても信仰されるようになった。

では、幅広い層から信仰を集める伏見稲荷大社は、いつ・どのようにして誕生した

のだろうか。伏見稲荷大社の公式 HP によると、社記には「元明天皇の和銅 4 年 2 月壬午の日に、深草の長者“伊呂具秦ノ公”が勅命をこうむって、三柱の神を伊奈利山の三ヶ峰に祀ったのにはじまり、その年は五穀が大いにみのり、蚕織なって天下の百姓は豊かな福を得た」とある。そのため、御鎮座は奈良時代の和銅 4 年（711）2 月初午の日とされている。平成 23 年（2011）には御鎮座 1300 年を迎えており、かなり歴史の長い神社であることが分かる。しかし、残念ながら「応仁の乱」の戦禍を被り、稲荷神社は応仁 2 年（1468）3 月に山上・山下の他の殿舎と共に焼失している。社伝には、同年 12 月には早くも仮殿を設けたとあり、その後の明応元年（1492）2 月に本殿を修造し、同 3 年（1494）6 月に本殿の壁を修理した。そして、同 8 年（1499）11 月 23 日に五社相殿の本殿への遷宮が行われ、現在に至る。

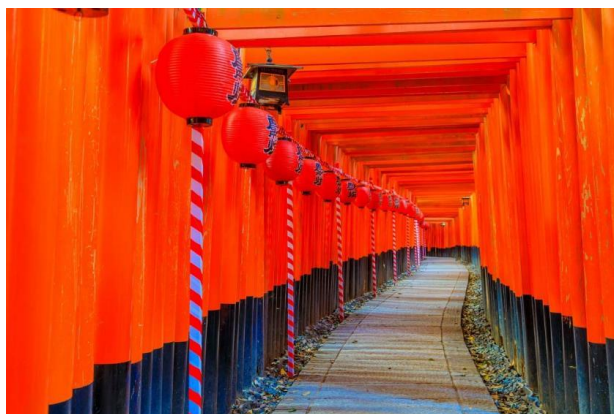
伏見稲荷大社の社名起源については、『山城国風土記』の逸文に『風土記に曰はく、伊奈利と称ふは、秦中家忌寸等が遠つ祖、伊呂具秦公、稲梁を積みて富み裕ひき。乃ち、餅を用ちて的と為ししかば、白き鳥と化りて飛び翔りて山の峯に居り、伊禰奈利生ひき。遂に社の名と為しき』とある。要約すると、「秦中家ノ忌寸等の遠祖、伊呂具秦公の的にして射た餅が白鳥と化して飛び翔けり、その留った山の峰に“稲”が生じた奇瑞によって、イナリという社名になった」となる。（伏見稲荷大社公式 HP より引用）

また、この文章は『其の苗裔に至り、先の過ちを悔ひて、社の木を抜じて、家に殖ゑて禱み祭りき。今、其の木を殖ゑて蘇きば福を得、其の木を殖ゑて枯れば福あらず。』と続いており、伏見稲荷大社に伝えられている「しるしの杉」の起源説話的なものとなっている。伏見稲荷大社は、稲荷神が稲荷山の峰に鎮座したとされる二月初午の日に「初午祭」を行っており、この日の参拝者には商売繁昌・家内安全の御符である「しるしの杉」が授与される。これは、先に述べた「社の木を移植して、その木が根づけば福を得ることになるし、根づかずに枯れれば福が得られない」という信仰にもとづくものとされる。「きさらぎや けふ初午のしるしとて 稲荷の杉は もとつ葉もなし」（光俊朝臣 『新撰六帖』）という和歌からも読み取れるように、古くは平安時代から、初午詣をした人々は御神木の杉の枝を持ち帰ったようである。



ところで、伏見稲荷大社を特徴づけている要素とは何であろう。私は、鮮やかな朱色の鳥居が連なった「千本鳥居」と、累々と山肌を埋め尽くして推し並ぶ「お塚」だと考える。

「千本鳥居」とは、境内後方にある「奥宮」から「奥社奉拝所」への山道（距離にして約 400m）に密集して建てられている鳥居のことを指す。約 2 m の高さの鳥居が二筋に別れて隙間なく立ち並んでいる姿は圧巻である。因みに、千本鳥居と呼称されてはいるが、実際の本数は約 800 基と言われている。鳥居に見られる特徴的な朱塗りは、古くから「稲荷塗」といわれ、この朱色には魔力に対抗する力があるとされる。とりわけ稲荷神社においては、五穀豊穡を象徴する色として信仰されている。現在では「伏見稲荷大社＝千本鳥居」というイメージが強いが、実は、現在の形態となったのはここ数百年のこと。今日の千本鳥居は、江戸時代以降に、願い事が「通る」あるいは「通った」という感謝の印として鳥居を奉納する習慣が広がった結果、生み出されたものである。鳥居を奉納する習慣は現代においても残っており、初穂料を納めることで奉納できる。伏見稲荷大社の公式 HP によると、その料金は、最も小さな 5 号（直径 15 cm）で 21 万円、最も大きな 10 号（直径 30 cm）で 160 万円である。



千本鳥居ほど有名ではないが、その鳥居を上回るほどの強い信仰心を感じさせるものがある。それが「お塚」である。お塚とは、稲荷神の崇敬者が私的な守護神として思い思いの神名を記し、お山に奉納した石碑のことをいう。稲荷山には、神蹟（かつて祠があった場所）を中心に一万基を超えるお塚が存在しているといわれており、そのほとんどは明治時代以降に築かれたものだという。伏見稲荷大社の記録によると、明治 35 年（1902）には 633 基あったお塚は、昭和 7 年（1932）には 2,254 基になっており、さらに昭和 42 年（1967）には 7,762 基と急増している。その理由について正確なことは分らないが、明治新政府による神仏分離政策が原因の一つではないかと言われている。明治元年（1868）に発布された「神仏判然令」により、社地内にあった仏教関係のものは全て排除され、それまでは勧請の神璽（＝印章）などに比較的自由に書くことができた神号も全て「稲荷大明神」に統一されることとなった。つまり、その他の神名は一切排除されることになったのである。そのため、私的な信仰をつづける場を失った人々が、稲荷山中のできるだけ人目につかないところに勝手に塚

を築き、私的な拝所をつくるようになったというのだ。稲荷山を埋め尽くさんとするお塚は、伏見稲荷大社の多様な広がりをもった信仰のありようを示している。

自然や自然現象などに基づくアニミズム的な民族宗教であり、古代日本に起源をたどるとされる「神道」において、神霊が宿る御霊代・依り代を擁した領域のことを「神奈備



(かなび)」という。神奈備には、常緑樹に対する信仰である「神籬（ひもろぎ）」と岩に対する信仰である「磐座（いわくら）」の二種類の形がある。先に述べた「しるしの杉」は神籬型の信仰であり、「お塚」は磐座型の信仰である。伏見稲荷大社には、二つの信仰がともにあるのだ。そして、千本鳥居もまた、信仰の一つの形と考えられる。これらは、伏見稲荷大社を信仰する「人々の想い」が具現化したものである。この視点でもって、改めて伏見稲荷大社やその周辺を眺めると、その想いの力強さに圧倒される。これまで見えていた世界とは異なる世界が見えてくる。

先人たちの想いが積み重なって今日の伏見稲荷大社を形作っているように、長年に渡り受け継がれてきた人々の想いは、これから先も脈々と受け継がれていくだろう。

【参考書籍・HP 等】

- ・ 三好和義・岡野弘彦・桜井敏雄(2003). 日本の古社 伏見稲荷大社 淡交社
- ・ 京都市産業観光局「京都観光総合調査」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000271459.html>

- ・ 伏見稲荷大社 公式 HP <http://inari.jp/>
- ・ 伏見稲荷大社 Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BC%8F%E8%A6%8B%E7%A8%B2%E8%8D%B7%E5%A4%A7%E7%A4%BE>

【使用する画像】

- ・ 伏見稲荷大社； [伏見稲荷大社の絶景 | ZEKKEI Japan](#)
 - ・ 千本鳥居： [伏見稲荷大社の絶景 | ZEKKEI Japan](#)
 - ・ 大社マップ： [大社マップ | おいなりさんへ出かけよう | 伏見稲荷大社 \(inari.jp\)](#)
 - ・ しるしの杉： [初午大祭【伏見稲荷大社】 | 【京都市公式】京都観光 Navi \(kyoto.travel\)](#)
 - ・ お塚
- ： [伏見稲荷の真の魅力はここにあり。パワースポット・稲荷山ハイキング【京都旅行記】 | TABIZINE～人生に旅心を～](#)